

5 今後の進め方

○小学校を1校に統合する場合の概略スケジュールは以下のとおりになります。



<メモ>

美里町立小学校のこれからのあり方について (案)

1 町立小学校の現況

○現在、3つの小学校の児童数・学級数（令和5年5月1日現在）は、以下のとおりです。

松久小 171人（通常学級6学級）
東児玉小 234人（通常学級8学級）
大沢小 93人（通常学級6学級）

学校名	建物名	竣工年度	築年数(年)	延床面積(m ²)	敷地面積(m ²)
松久小学校	教室	1972	51	2,430	11,147
	体育館	1976	47	803	
	給食室	1981	42	110	
東児玉小学校	教室1	1977	46	1,632	13,547
	教室2	1979	44	1,457	
	体育館	1977	46	912	
大沢小学校	給食室	1979	44	140	16,138
	教室	1982	41	2,459	
	体育館	1972	51	608	
大沢小学校	給食室	1982	41	109	

○1学年1クラスの単学級が多く、クラス替えができない現状です。今後、更なる児童数の減少により、1つのクラスに複数学年の児童

が混在する複式学級となる可能性もあります。子どもたちが将来、集団の中で多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨する機会を設けることが重要です。そのためには適正な学校規模の維持が必要です。

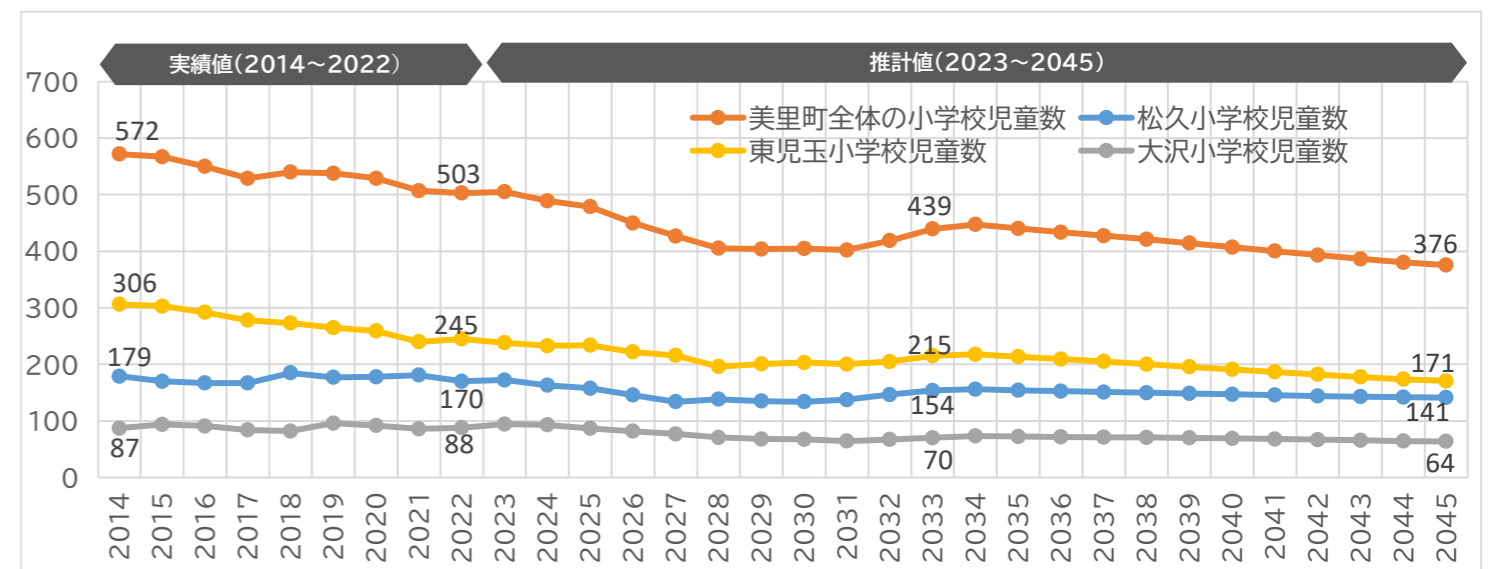
○令和の時代の新しい学びに対応していく上で、ハード・ソフトともに多額の資金が必要になります。同時に現在、3つの小学校の校舎は築40年以上が経過し、老朽化が進行しており、今後、維持していくには長寿命化改修（大規模改修）が必要で、3校とも維持するには膨大な費用が見込まれます。

○国際化やDXの進展など、私たちを取り巻く環境が大きく変化する中で、3校維持に必要な老朽化対策予算を、充実した新しい学びに対応した施設にすることにより、これからの社会で活躍する人材を育成することができます。

2 将来の児童数と教育環境

○将来の3つの小学校の児童数は、2033年（令和15年）には、東児玉小学校で215人、松久小学校で154人、大沢小学校で70人となる見込みです。更に、2045年（令和27年）には、東児玉小学校で171人、松久小学校で141人、大沢小学校で64人となる見込みです。

○1つの小学校に統合した場合を想定すると、2033年（令和15年）には439人、2045年（令和27年）には376人となる見込みです。



○文部科学省では、小学校の望ましい学級数はクラス替えが可能な **1 学年 2 学級以上**としています（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き）。2学級とするためには **1 学年最低 36 人**が必要です。

○ **1つの小学校に統合**した場合には、児童数の大幅な減少が見込まれる2043年（令和25年）においても、1学年2学級の望ましい学級数が維持されます。

小学校		実績値		推計値						
		H29	R4	R5	R10	R15	R20	R25	R27	
1つの小学校に統合した場合	児童数	529	503	505	405	439	422	387	376	
	学級数	17	17	17	12	14	12	12	12	
3つの小学校を維持した場合	東児玉小学校	児童数	278	245	238	196	215	201	178	171
		学級数	12	8	9	6	7	6	6	6
	松久小学校	児童数	167	170	172	138	154	150	143	141
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6
	大沢小学校	児童数	84	88	95	71	70	71	66	64
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6

※大沢小学校は、学年の人数によっては複式学級となる可能性があります。

○本町において1つの小学校に統合する効果は以下のとおりです。

学習面

- ① 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が増す。
- ② 児童、教職員数が増え、グループ学習や習熟度別学習、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教員の配置、ALT（外国語指導助手）の常時配置、各種支援員の配置、専科教員による指導など、多様な学習・指導形態が取りやすくなる。
- ③ 運動会での集団演技・団体競技や音楽会での合奏・合唱の規模を大きくすることができ、学校行事が充実する。
- ④ 中学校の敷地内や周辺に整備することで、中学校との施設の共用化や小学校と中学校との教育面での連携が可能になる。

生活面・環境面

- ① クラス替えができるようになり、人間関係等が固定化しにくくなる。
- ② 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ③ 友人が増える。集団遊びが成立し、遊びの幅が広がる。クラスの男女比が均等になりやすい。

学校運営面・財政面・その他

- ① 教職員一人に対する複数の校務分掌の集中が解消され、与えられた役割に専念できるようになる。
- ② 3校それぞれを建替え・改修するよりも、1校に統合して新設校を整備した方が、スクールバスの導入を含めても将来費用負担が軽減される。

3 スクールバスの運行

(1) 利用対象者

通学距離が道のりで2km以上の児童（ただし通学班単位で決定します）

(2) 想定ルート数

12ルート

(3) 想定便数

登校時1便または2便・下校時2便

(4) 想定バス停発車時刻

7:20~8:00頃

(5) 想定乗車時間

5分~30分

4 将来費用負担の軽減

■ 1つの小学校に統合した場合（試算）

今後40年間で **124 億円** (3.1 億円/年)

◆ 主な費用

・新設小学校の整備	35.0 億円
・新設小学校のプール改築（築後30年目安）	3.1 億円
・スクールバスの運行	34.5 億円
・美里中学校の長寿命化改修（築後40年目安）	11.0 億円
・既存3小学校の維持管理・運営コスト	5.6 億円
・新設小学校の維持管理・運営コスト	14.0 億円
・美里中学校の維持管理・運営コスト（40年間）	20.7 億円

■ 3つの小学校を維持した場合（試算）

今後40年間で **173 億円** (4.3 億円/年)

◆ 主な費用

・既存3小学校の長寿命化改修（築後40年目安）	21.7 億円
・既存3小学校の建替え（築後80年目安）	70.1 億円
・美里中学校の改築（体育館：改修後35年、プール：築後30年目安）	14.7 億円
・美里中学校の長寿命化改修（築後40年目安）	17.9 億円
・既存3小学校の維持管理・運営コスト（40年間）	24.5 億円
・美里中学校の維持管理・運営コスト（40年間）	23.6 億円

※上記2ケースにおいて、「1つの小学校に統合した場合」の方が、美里中学校の長寿命化改修、維持管理・運営コストの費用が低くなるのは、美里中学校の一部の機能を新設小学校に持たせているためです。